

保育の實際

△保育座右の銘

静岡市静岡幼稚園 宇式 かん

静岡幼稚園では、毎月の保育談話會毎に、左の事項を讀むこととして居らるゝそうであります。願つて御送りを頂いて掲げること致しました。他の幼稚園でも斯う云ふ類の御實行がありましたら、どうぞ御知らせを願ひます。(編者)

幼児保育の實際に當り必要なる事項

- 一、先づ幼児の性質及び體格を知り序で其家庭を知られよ
- 一、言語は明瞭に口數少なく動作にて示されよ
- 一、緩嚴の度に注意し正しき態度を取られよ
- 一、禁止の言葉避けられよ
- 一、成可く消極的を避け積極的を取られよ
- 一、幼児は反對性を有するを知られよ
- 一、幼児との約束を違ふるな
- 一、幼児たりとも人壹人なり人格を尊ばれよ

- 一、幼児は爲す如くには爲すものなれど云ふやうにはせぬものなるを知られよ
- 一、幼児悪しとも直に幼児悪しと思はず先自らを反省せられよ
- 一、自身の子弟妹の愛情を以て幼児を取扱はれよ
- 一、室内保育より室外保育を重せられよ
- 一、心靜かに敏速なれ

△山國の幼稚園

長野高等女學校 附屬幼稚園 勝村 春枝

當幼稚園へ入園しまして、最も目に立つのは、身體の健康になる事と、氣の強くなる事とで御座います。此の點は父兄も大層悦んで居られます。新任せられた女學校の先生方はこの話を御聞きになりますと、いつも「まあ」と驚おられますが、私は常に「かくして信州人の氣象を養成するのです」と申して居ります。

園の、すぐ裏が山で御座いますから、春秋の暑からず寒からぬ好時節には、始終山遊び許りで御座います。

辨當もちで出かけます時の子供の喜びは、一通りでは御座いません、皆さまが御覧になれば、随分太膽な亂暴なやり方だと、お驚ろきになる方もあろうと存じます。

幼兒の隨意遊戯は、其の土地の風俗習慣時候等によりて、それ／＼差異のある事とぞんじますから信州長野における我が幼稚園兒での、一年間の遊び方を御紹介いたし、御批正を仰ぎ度いとぞんじます。

春

四月になりますと、さすがに、雲深き信州の空も、だん／＼、春めいて来て、外遊も出来しますので、枯草の間をさがしては、もち草をつみ、新入兒をつれては砂場で遊びます。

砂場では何を作るかと申しますと、大抵山に川、

家などで御座いますが、山といへばさすが富士山に淺間山、川は犀川千曲川、家は善光寺の御堂で御座います。一體に善光寺さまが、どの位、幼兒の頭に深くきざまれて居るかわかりません、どこへ行きましても、「あ、御堂の屋根が見える御堂が見える」と云つて喜んで居ります。

夏

世はだん／＼夏めいて、蟬のこえにやう／＼暑さを知る頃となりますれば、幼兒のつかれも早いので、時々室に入れたり外に出したりいたします。こゝには烏エンドーといふ豌豆のやうな實がありますので、それをとつては笛をこしらへて居ります。但し夏は外遊よりは、重に室内や廊下で遊ばせることが多くあります。

秋

九月十月の頃は、丁度時候のよろしい時で御座いますから、幼兒等は、毎日、外に出て餘念もなく、蜻蛉やバッタ等を捕へて遊んで居ります、女兒は

重に裏の畔道でかまじをとつて遊びます。又さ、
 やかなる、谷川の邊に行つては、蟹をとらへ、山
 に登つては、葺をとり、櫟の實を拾ふなど、随分
 愉快におもしろく遊びます。十月半は頃に、一里
 内外の所に遠足をいたします。

冬

かくて秋もすぎ、梢に時ならぬ花の咲く頃となり
 ますと、もう少しも外へ出る事は出来ません。十
 一月の末から、翌年三月迄は、外遊は殆ど出来な
 いので御座います。幸に、一間半に二十間の長廊
 下がありますので、旗取りに、かけつこに、汽車
 遊び、戦ごとと、自由自在にはなまわつて居りま
 す。早とりと申しまして、活人畫のまねのやうな
 活動寫眞のやうなものもいたします。羽子や風船
 もかし興へます。戴囊や御手玉も持たせませす。そ
 して室内に大黒板をそなへ付ておきまして、自由
 に書かせます。火鉢をかこみては談話會もいたし
 ます。

雪は大抵一尺内外で御座いますが、澤山降りまし
 た時には、雪だるまをこしらへましたり、雪なげ
 をしたり、又は雪の中には入つて飛び歩きます。
 雪なげのねらひは、いつも、袴の邊ときめておき
 ますので、其れがための危険は、一度も御座いま
 せんでした。私どもの懐には、始終伴創膏や繻帶
 がは入つて居りますが、いつも子供のお供をする
 許りでお座います。怪我は却つて安全な場所に有
 り勝ちのやうであると思はれます。
 信州人は、一體に活潑で、言語等もさつぱりして
 居ります。従つて子供達も過ぎる位の元氣があり、
 随分、亂暴な動作をする時も御座いますが、總じ
 て良家庭の子供が参りますので、もてあますと
 云ふやうなことは御座いません。

うなゐ子が心を野邊にふく笛は

思ふふしなきさびとぞ聞く

(足代弘訓)